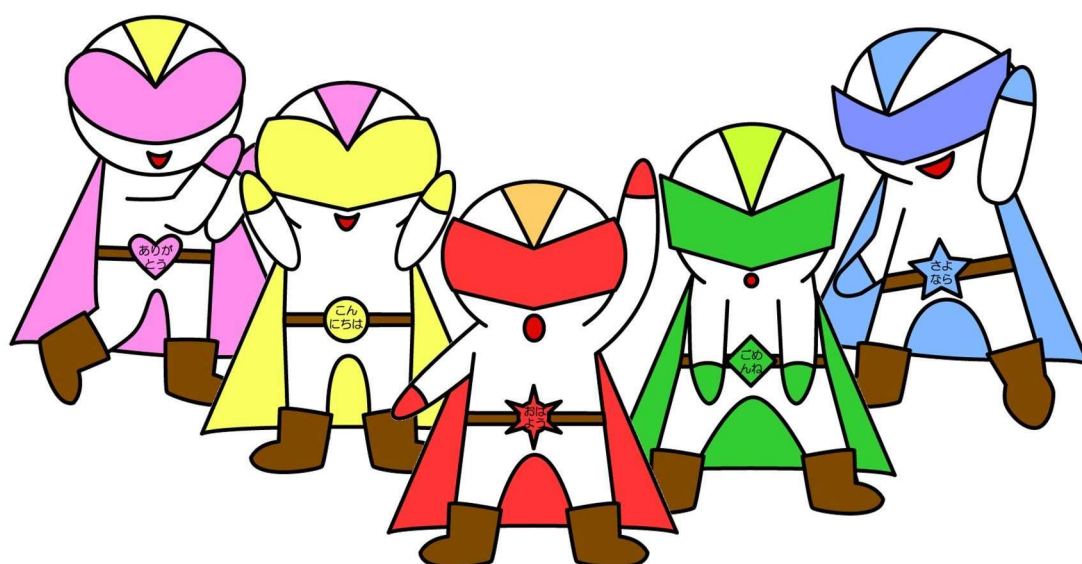


平成 30 年度

全国学力・学習状況調査の 結果について



海老名市立有馬小学校

目次

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「理科に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 4
「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 5
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 6



資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童・生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家からは、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

- 国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒
- ・ 小学校第6学年
 - ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

(1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)
- 理科 (主として「知識」「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)
- 理科 (主として「知識」「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

(2) 児童生徒に対する質問紙調査

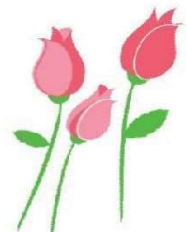
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

(3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成30年4月17日(火)



国語に関する調査結果

国語 A (主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

○慣用句の意味と使われ方として適切なものを選択する問題については、比較的正答率が高いです。

【今年度問題】心を打たれる

○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことは、比較的できています。

【今年度問題】・せい造 ・せつ備
 ・しょう毒 ・かん理
 ・せつ極的

《努力を要する所》

○文中における主語と述語との関係に注意して、文を正しく書き直すことに課題がみられます。

○相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに課題がみられます。

国語 B (主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

○目的や意図に応じ、文章全体の構成の効果を考えることは比較的できています。

○推薦文では、他のものと比較して書くことで、よさが伝わることを9割近くの児童が理解しています。

《努力を要する所》

○目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書くことに課題がみられます。

○話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えることに課題がみられます。

○目的に応じて適切な本や文章を選んで読むことに課題がみられ、無解答率も高いです。

これまでの取組から

○朝自習の時間に「読書タイム」を毎週1～2回設定して、読書の習慣が身につくようにし、語彙が増えるようにしています。

○3学年以上で1人1冊の国語辞典を用意し、言語活動の下支えとなるように国語以外の教科においても使用できるようにしています。

今後の具体的な取組について

○日頃の授業で自分の考えを友達と伝え合う場を意図的に設定するように努めます。

○問われている内容を読み取る力を育てるため、読書の機会や量を増やします。

○自分の考えをまとめるときには、理由を明確にし内容を整理して書くように指導していきます。



算数に関する調査結果

算数 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 単位量当たりの大きさを求める問題場面では、数量関係を数直線上に表わすことができます。
- 直径の長さと同周の長さの関係について理解しています。
- 無解答率が比較的低いです。

《努力を要する所》

- 具体的場面で2つの数量関係を理解し、大きさを求めることに課題がみられます。
- 円周率の求め方についての理解に課題がみられます。

算数 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 問題文中に示された情報を理解し、条件に合う時間を求めることができます。
- 条件を変更して考察した数量の関係を、問題文に示された表現方法を用いて記述することができます。

《努力を要する所》

- 示された棒グラフや帯グラフから何が読み取れるのかを適切に判断することに課題がみられます。
- 示された数量を関連づけて考えたり、根拠を明確にして理由を記述したりすることに課題がみられます。
- 無解答率が比較的高いです。

これまでの取組から

- 学年や単元によって、TT（ティームティーチング）や、少人数指導を行い、個々の学力や学び方の特性に合わせて理解が進むようにしています。

今後の具体的な取組について

- 学習内容の定着を図るため、繰り返し学習や学習形態の工夫等の指導方法を充実させるとともに、本校の家庭学習の手引きなどを用いて、家庭学習の習慣化を低学年から積み上げていけるように、指導を継続していきます。
- 文章問題の文意を理解したり、問われていることに対して適切に答えたりする力をつけていくために、今後も本校での研究「言葉への関心を高め、基礎・基本の定着をめざした指導」と関連づけながら、授業の工夫をしていきます。



理科に関する調査結果

《優れている所》

- 鳥の翼と人の腕のつくりについて、どのような視点を基にまとめた内容なのかが分かります。
- 目的の時間帯だけモーターを回すため、太陽の位置の変化に合わせて、箱の中に置く光電池の適切な位置や向きを選ぶことができます。
- 海水と水道水を区別するための2つの異なる実験方法から得られた結果を基に適切に判断することができます。

《努力を要する所》

- 電流の流れ方について、自分の考えと異なる他者の予想を基にして、検流計の適切な針の向きと目盛りを選ぶことに課題がみられます。
- 電流の向きと大きさについて、実験結果から考え直した内容を選ぶことに課題がみられます。
- ろ過後の溶液に砂が混じっている状況に着目しながら、誤った操作に気付き、適切に操作する方法を選ぶことに課題がみられます。

これまでの取組から

- 実験の目的をはっきりさせるとともに、各グループの実験結果について全体で確かめ合い、正しい知識を持てるようにしています。
- ノートに実験結果の予想を書かせたり、結果を元にした自分の考えを書かせたりするなどして、考えることを大切にしています。

今後の具体的な取組について

- 実験の予想について、理由の異なる2つの考え方を比べさせたり、実験結果を基にした異なる2つの結論について、どちらが正しいかを考えさせたりするなどして、論理的思考力を養っていきます。
- 学習の過程を大切に、児童がより主体的・対話的に実験を進めていくことができるような授業にしていきます。



児童質問紙の結果より

学習について

生活について

数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の回答率を足したものです。

《よかった所》

学習習慣 体験的な活動を中心に積極的に取り組む姿勢がみられます

- 「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」84%
- 「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」69%
- 「理科の勉強が好き」81%
- 「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある」90%
- 「理科の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思う」71%

《課題と思われる所》

学びに向かう力 主体的に学習を進めていく力に課題がみられます

- 「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える」56%
- 「理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしている」36%
- 「理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている」48%
- 「家で学校の宿題をしている」90%
- 「学校の授業以外に普段読書をしている時間」
 - ・10分ぐらい 26%
 - ・10分より少ない 18%
 - ・全くしない 30%

《よかった所》

生活習慣 基本的な生活習慣が身につけています

- 「朝食を毎日食べている」95%
- 「毎日、同じくらいの時刻に起きている」92%

自分自身について 自己肯定感が持っています

- 「自分には、よいところがある」86%

人との関わり 人との関わりを楽しみ、大切にすることができます

- 「人の役に立つ人間になりたい」100%

《課題と思われる所》

社会性 規範意識が低いです

- 「学校のきまりを守っている」72%

地域・社会 地域や社会のできごとに対する関心が低いです

- 「住んでいる地域の行事に参加している」43%
- 「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」48%
- 「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」33%

これまでの取組から

○学校教育目標に則り、教職員相互の信頼と協力を基盤とし、全職員で気持ちを一つにして教育実践に努めています。

○家庭や地域との連携・協力を大切に考え、ともに子どもたちを育てていく学校づくりに努めています。

今後の具体的な取組について

○指導法を工夫・改善して基礎的内容の定着を図るとともに、主体的・対話的で深い学びにつながる授業づくりに励みます。

○道徳の授業や学校行事、または普段の生活指導などを通して、相手の立場で考える力を育てたり、支え合って生きていることへの理解を深めたりしていきます。

○地域の教育力を生かした体験的学習により、児童の生きる力を培っていきます。

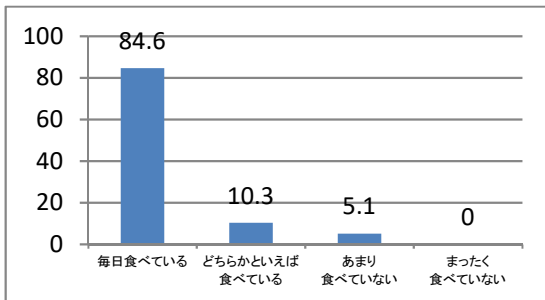
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成30年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

1 早寝・早起き・朝ご飯を続けていきましょう。

基本的な生活習慣を身につけることは、学習面に良い影響を与えます。

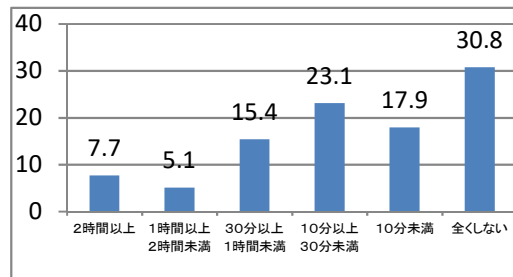
朝食を毎日食べていますか。



2 本を読みましょう。

読書は、語彙を増やし、豊かな想像力・表現力を育みます。読書をする時間を増やしましょう。

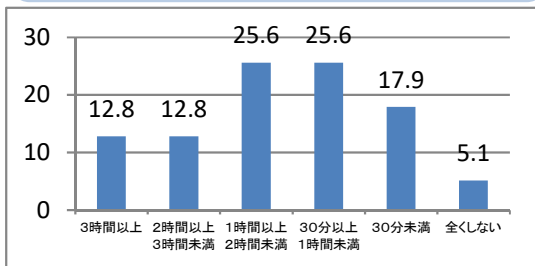
学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか。



3 家庭学習に継続して取り組み、よりよい学習習慣を身につけましょう。

学習内容の定着を図るためには、家庭における学習も必要です。見守りや励ましを続けましょう。

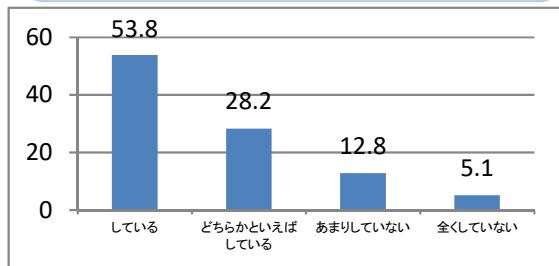
学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。



4 豊かな言葉や対話を大切にしましょう。

学校であったことなどに耳を傾けてあげてください。豊かな言葉と温かい心を育みます。

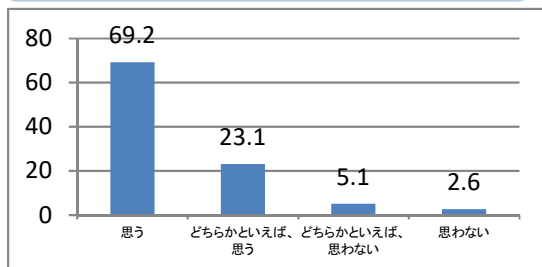
家の人と学校での出来事について話をしますか。



5 いじめは許されないという意識をさらに高めていきましょう。

いじめは絶対に許されないことや、適切な対処法などについて、日頃から話し合っておきましょう。

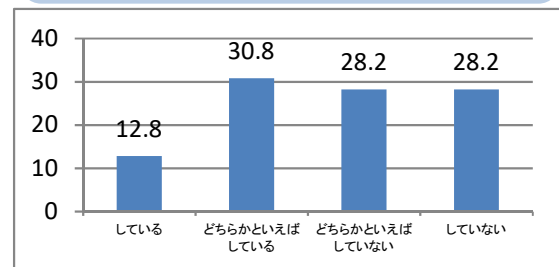
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。



6 地域や社会とのつながりを大切にしていきましょう。

地域の行事やボランティア活動などに積極的に参加して、社会性を育てていきましょう。

今、住んでいる地域の行事に参加していますか。





平成 30 年 12 月